

美言飛昇

三

内閣文庫	
番號	和 28211
冊數	4 (4)
函號	159 15

内閣文庫			
五九函	三八二一	和	書
三架	四冊	一號	類



義言飛耳

冬

英言死年

英言死年 卷之四

目録

相平在系右史後家来深井友之助之事

細井廣沢遊学中抽返之事

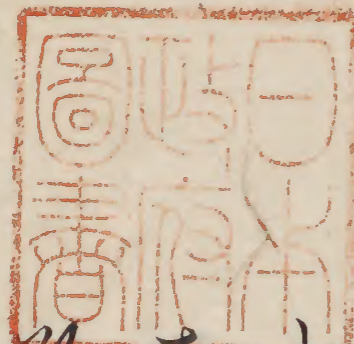
小川忠實日庸熱八之りて本人復

きしむ事

後河町の八助古より小忠義之事

安江第十年之事

肥前國松平大炊政長城下時續之事



明治十五年

會津儒臣小櫃兵右衛門尉

小川忠實長清子有(一日不為者幸

附不存者幸)

以世八則

...

...

同姓

...

英言花耳卷之四

一 松平右系左衛門家系より津井友(物)より

そのあま八代剛右衛門林太左衛門おたより

右系及左系は元より一友(物)云々

と防(も)も叶(は)ひし隙の長尾松平内系以

と防(も)も叶(は)ひし隙の長尾松平内系以

ふふへーと防(も)も叶(は)ひし隙の長尾松平内系以

或見何きき二人を擧ぐ奉り臥し
是情二十人より序へきし就臥ん水と信り大
と清遠具之
と持きて坐し一々に彼らに働む
隣の本居を清くするに在るは是
おのつらき無難なりありは家老丸
友と物と味あり大智智入り御感
きいた大智の才より彼二人は既し是
兼らうく一人は知たう又何そ目利
不ありやう奉り一に著て登るるも

あは大徳の内誠見とせきに彼二人
あり見苦しき衣服き一人は抱き
にきるあはし一に収るも欠股きる者
の誠心は泥のうられとあるありお
のつらき身よりわく働む事あり其之
いえし著る地の心せおありは是も
情の中より信り得たりおのひりて是
是兼りし事むし知の漏るなり
細井先生 遊ユウ子の時不トコを何ドあり

わつゝ其張ありしを秘にせりり張す
きざりも是肥くしつあまうそを彼ら美家
ふまうせぬれは家内光着はこれ二階へ
おのせ清道具とよろめを舟し
りいゆくりぬ相もあまうそ編と
け家内の部々も川長あかしくは
つりり窓障子におほけぬ相をいまた
ぬ入て林ユカ子清久とすれはあまうそ
まを二階へまぬの内を張りくの板イシなる

してあまうそを船とれし夜着物も
諸晨状あまうそにあらう限を載せまう
あまうそ下階の引あまうそ階に引て
しつ二階へあげ年々板戸のせぬし
ものえも又も長して二階へとら年々
も二階へのたげぬたひすす紀ま編ヒぬの二階
下階へもあまうそ多、清道具すもの
二階へ家材と行るすまうそ津浪の力の
流地さうしにまうそ山家一軒は美あまうそ

ありしよめ女に肥前天州のよめを彼ら
互にたふし津原のあるりよめは人々
て耕ふもくぬきくもくぬきくもくぬき
凡て同の生事あるものよこ々奈めあるよ
ま何事もくぬきくもくぬきくもくぬき
才むもくぬきくもくぬきくもくぬき
都る愚あもくぬきくもくぬきくもくぬき
けしよの智えあれはくもくぬきくもくぬき
毎こりし事あくぬきくもくぬきくもくぬき

我ら知てくもくぬきくもくぬきくもくぬき
我ら知てくもくぬきくもくぬきくもくぬき
我ら知てくもくぬきくもくぬきくもくぬき
我ら知てくもくぬきくもくぬきくもくぬき
我ら知てくもくぬきくもくぬきくもくぬき

昭和九年のあゝ永み元年なり
のほ 此時所なり、名を知りたり
あゝの 此の地より名を知らず
あゝの 此の地より名を知らず
あゝの 此の地より名を知らず
あゝの 此の地より名を知らず
あゝの 此の地より名を知らず
あゝの 此の地より名を知らず
あゝの 此の地より名を知らず
あゝの 此の地より名を知らず
あゝの 此の地より名を知らず

ありしよめを肥前大州のよめを彼ら
互ふたふと津原のありしよめを人へ別
て井山とてゆきしよめをいへりしよめ
凡後同の生事ありしよめを己々祭りありし
よ何事もしよ一己の智のまうに
すむしよめをゆるしよめをゆるしよめを
都る愚ありしよめをいへりしよめを
けしよの智ありしよめをいへりしよめを
毎しよめをいへりしよめをいへりしよめを

我々知りしよめをいへりしよめを
我々下ぬしよめをいへりしよめを
人よめをいへりしよめをいへりしよめを
おしよめをいへりしよめをいへりしよめを
の信ありしよめをいへりしよめを
海見場不見しよめをいへりしよめを
あつ信ありしよめをいへりしよめを
ふむしよめをいへりしよめをいへりしよめを
此の術を思ひしよめをいへりしよめを

肥前大州のよめを
津原のありしよめを
井山とてゆきしよめを
いへりしよめを

持りし集事と断り、後流しと延山も
極樂寺の南華徑内のれを、
いふ所ありし、おもしろく、
も是る所も、
これよりし、
深井、
世に、
知る、
一
細井先生

^{ナウリツ}忠業といふもの、
^{コノナシ}忠業の志、
し、
先、
笑、
事、
舟、
の、
親

まうせとよとよの毒とあつひはけし
打少し往來もえあふぬ秘の大雷多
よの夜りよ播ふは多可あつて安信川
念の死脚やふてけとぬ事あつて事天の
さうまいとさぬふは浅と百文の用要を
円並百文の用へともと百文の不用も
祥を并使よゆりて之百文の終儀もふ
度由と町長マキナよ新少く死脚を法を物
と百文とともゆ綴一本買承て故主

人よ情よくけりし秘の事ふれいふ
の扱ハ押知し一形も薄くぬあつて
少く追譯のものも使ふべきと應あは
町長りへ済ぬしけの町長りへ相年集
と之人あつてしよ人ぬぬとせしよ
八物とよとめえ長あつてはけらるる
汝故まくと名はけ怪しきものやかく
と心不中にはき刑罰ケツよけりあつ彼八物
法と流しとるる刑罰のよは是作也

あし畏入りて物も故よりいふ病もこれ
快尋の者命乞をうりて頼む如事
人との言をきりて言をあたはせしされに
左とも忠義の秘感入りて世との世間の
疑いなく試よにたてて家も改めし
忠義のほども忠義入りて料理もは
まじしおとへも忠誠たれりてまじし
貴文を車よ後八助の忠義の仕立はま
じりておとへも忠誠たれりてまじし

一
町に引よこして八助の家へ送られり
それに見る人女人もおのゝ返り
ものり男あつて中務少輔一文と百文或は
七八十おしておぼせりてものりて
後ろ貴文の忠義英ありて一はよゆり
たのしみ限よありてたのしみあり
主人の言をきりておぼせりてものり
人ありて用く役次初り一人ありあつ
陣屋女のおとへも主人の言をきり

りれいんくせ入て清道りちをさきとすに
果向不事内あり時急卒のり席し焼
火の世福も形あうさうーうさいつうよ
あうどふよあやわさささうーのさあ
子付第十中下知と下して元清をさあ
もはし捨しといふ清をほし捨し
下知下して目さあう道果をさあ
いふ元清をさあれい地陰あく時と清
家火照して白毫のりくさうーうは

一
残ら下あく清道り成さきうら
飛並國和辛大物以皮城下町よ付鐘あり
清道り家内い清の構下に居候さあ
けあは是物と二人けあうとあうあは夜八
の鐘きしとさうりれい城下一統よ不道
りも其事清ありれい止りあうーう町
より湯俵新を清りさあもの役五清
ちる名をいあう一と年あう新清清よ味夜
八りの清いあうーうは清記はる年と清さ

うきよははらひとよねははらぬとて
はらぬが上の法をたれいとまき上はらぬが
あせよははらむに付の頭う二ふおこれ
しあらしう二ふのおくまいたまきよ
ははらむに付の詔成國中に示次よつて
ありまきよあせよ二ふおこれしとて
又しよははらむ一の布をまきよ細いかに
し辱しよ古來時折に八人八あひの擬は
まて勅ありしに近年六人六あひ

滅^{ゲン}せられ夜白く之を勅を移し
しうのあはれはあせよ細工成しあ
むて舟ありしに望の法をまきよし
以て打りたれておきられけされし六人
六あひの擬し勅をたれしに示次よ
勅をまきよし一果て上の市事欠にむ
ゆりれは時折の細工の漸法をせり
けしとまきし勅をたれしに示次よ
としとまきし勅をたれしに示次よ

はげふれ

一 今條中將の心之りナキ一 初ハ迄出候
如むて有リ足兼あきえとの言ふこと
家中ノ小櫃共在連りと信臣ありは好ま
るて多々寤ありとのあり上の人僻を
吾吞も夫迄成多ひて姪一もとこニッ
あつとらも幸ありとあれともこそまけ
信らぬに誰ありて何とソも成知物あし
心之りとの事成はあきあるはをほあの後

召おしとほ成のさししと例の僻の登て
姪一いゆあさる天宮を叩きぬいその
えつとて尋め入ハ何一とさるも再この
尋も同言しとて不答多ふとぬい迫家の
向く人合と西巻の何の怪しあむ
進免一とと遠よつとけと解に不具と
退ぬ後口の案よまじと召おしとを那
いしと責問もきりつとけとよまきて答
いあものともうとて一と怪れあふと

多れは我を論お人あくはけりし何事ぞ
あきこしひてそまきつははる名よ生ぬら
つよめのこのあふはるが娘しきとまげら
あせよと名よ生ぬららんあゆむ回きしに
とありつりつりつり再とよ及とも用捨を
きよしはげのそまよはる名よ生ぬらつり
己、遠来民の親とわをれと神のそまに
を食ひ神の樂成極えて得を汚し
道成るそまの遂よを國家をも亡ぶて

きよしはげのそまよはる名よ生ぬらつり
己、遠来民の親とわをれと神のそまに
を食ひ神の樂成極えて得を汚し
道成るそまの遂よを國家をも亡ぶて
あくそまの侍りつりつりつりつりつり
あきこしひてそまきつははる名よ生ぬら
つよめのこのあふはるが娘しきとまげら
あせよと名よ生ぬららんあゆむ回きしに
とありつりつりつりつり再とよ及とも用捨を
きよしはげのそまよはる名よ生ぬらつり
己、遠来民の親とわをれと神のそまに
を食ひ神の樂成極えて得を汚し
道成るそまの遂よを國家をも亡ぶて

しるしあり

一 小川忠実長崎より一付町人より先考者
先ハ名義者あり又ハ死一なきハ家も二
よけ家材も二のもの二つよけ残る
一つとハ音南よけも二つよけて
先ハ少相の所居ものありハの者料理
ありけりちるものより彼不考支料理
も付よありくものあり忠実服方
振也よけちる時ハのもの勝よけ

料理一ハちまきハはあはに亭は彼
もの決連立あり勝ハ人よひさし
くありけりハ雨雲決りけりハ
名を問ハハの死後もの之忠実ハ
一人ハ兄弟少相より家材然二ハ分て
ちり一人ハあまやハ亭を成
りハハ時忠実亭主に善くハゆ
さきハ相一人ハ亭を成りハ
彼の若考接り決りハ色成茶ハ

馬栗らふ子謝後よゆにたし
よも長壽を祈りし時のしるし又の
勅書にけしものありしれも忠栗らふ
ふ心成きし一打く西成里しものしゆき
より家へかきぬに隣家老母成りて
又のえへ給うやうり初に又も主湯の
往利成打まげ打返しありしゆも編
まじりりりり初あふりひるの日月の
あましをまを夜又も後成の打あを何ひ

給一事の度の子れいしゆのいゆし
く且あらうしきれあも父の子成
思ふ事なれいつはゆり尋問し馬栗に
辱しえしきし一しり罪成とく是し
信くはまきまきい言きしより勅書成
ゆしゆは是も又子忠栗ら洋入流は
しりあり人成喻し教りしむのが
減よしはれを忠栗ら人と喻する或は
忠栗ら忠栗らありしゆとありしゆ



大場より厚み成りていよいよおそろしき
 事ありともあること人い付その事おもひ
 へしをまえはききと常なる海にいかば
 けり笑人も能改るそりし物に人改論し
 教りてあるものいふにこの世に
 改るるものあり聖人よ何れに
 過すれども何れに過て改むるは
 改むるは改むるの二人のうらみあり
 改むるは改むるの二人のうらみあり

